

学校法人 広島国際学院



広島国際学院
創立82年

HELP!! WARMBIZ

[11月~3月]

私からはじめます
次世代にきれいな地球を残すため

CO2削減を推進します

広島国際学院大学 情報デザイン学科
3年 梶川 仁

(広島国際学院高校出身)

若い感性と積年の研究、ともに結実

特集 GP取得	2	
特集 学生の活躍	3	
最近の研究から	工学部	4
確かなスキルが育む創造性		
情報デザイン学部	5	
一流に学び、将来へ活かす	現代社会学部	6
クルマの明るい未来へ快走	短期大学部	7
高校から発信	8・9	
教員の学位取得	10	
学生時代の思い出と社会人になって思うこと	11	
スチューデントアシスタント	12	
大学初！学生が「薬物教育認定講師」に	12	
教員免許状更新講習が終了	13	
現代社会学部の統合移転について	13	
特集 エコへの取り組み	14	
特集 産学連携	15	
特集 国際協力	16	
今後の主な行事予定	16	

広 報

第79号

平成21年10月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>

GP取得 —教育と就職支援の取組に高評価—

平成21年度文部科学省公募「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに、本大学の応募申請した取組が採択されました。取組名称は「全人的教育課程^{*}の構築による学士力確保と就職支援強化への取組」です。財政支援期間は平成21年度から23年度まで、補助金額(申請予定額)は年度ごとに8,241,000円、12,516,000円、12,336,000円、3年間の合計は33,093,000円になります。

文科省は、高等教育の改革促進および質保証強化の一環として、各大学等の計画する教育改革の取組の中から優れたものを選んで財政支援する事業を行っています。その際、採択された取組については、「GP (Good Practice : 優れた取組)」として広く社会に公表され、他大学等の参考に資することとなります。今年度の「大学教育・学生支援推進事業」も、各大学等から申請された取組の中から、学士力の確保や教育力向上の効果が見込まれ、かつ明確な達成目標を設定した取組を選定し、重点的な財政支援を行うものでした。

特に、今回の学生支援推進プログラムは、新規学卒者の内定取消しといった就職の不安定化に対応するため、私立大学を中心とする各大学の学生への就職支援強化など、総合的な学生支援の取組を対象としていました。4月17日に公募通知が行われ、5月15日に本大学は応募申請しました。そして審査の結果、上記取組が採択となり、7月7日には文科省より報道発表もなされました。

採択された本大学の取組は、本大学の特性を生かしながら学生の多様化に対応することを前提に

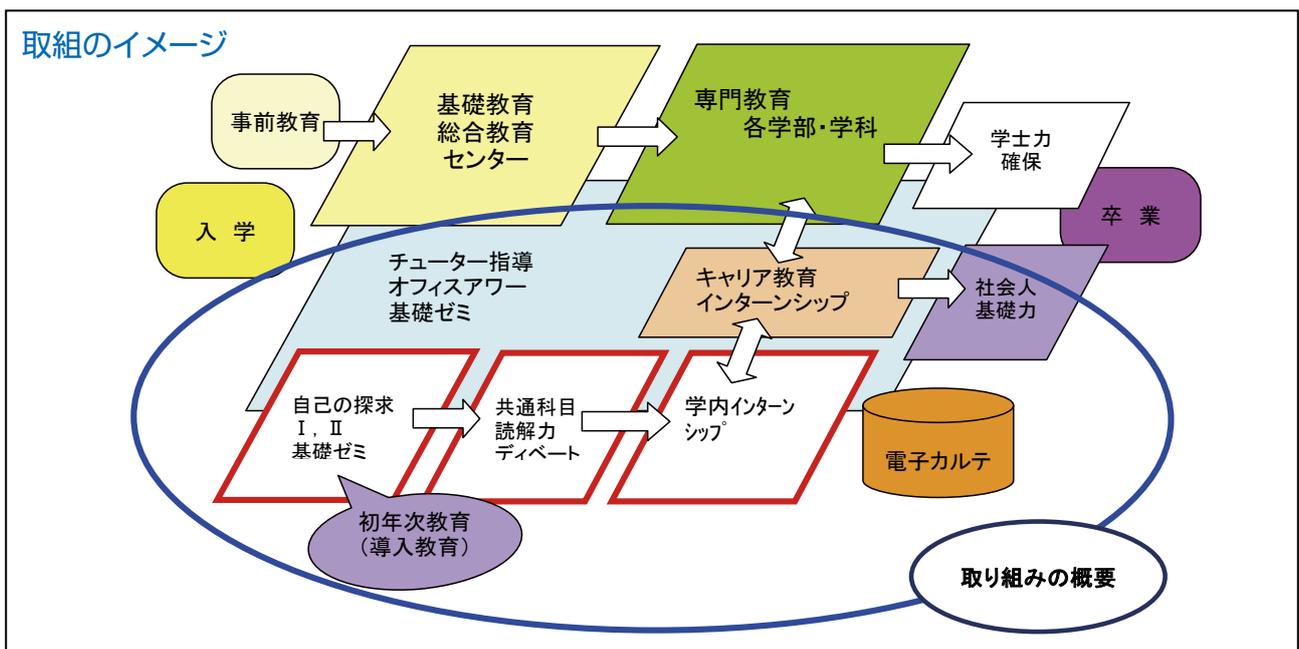
- ①入学年次からの積極的な学生支援による充実した学士力の確保
- ②就職に効果的な科目や制度の拡充による就職支援の強化
- ③学士力確保と就職支援強化とを有機的に連携させた総合的な全人的教育課程の構築

の3点を目的としています。またこれらの目的に沿って、達成目標を①GPA値の向上(2.5以上)、②退学率の減少(3.6%以下)、③進路決定率の向上(100%到達)の3点について設定しています。

具体的取組としては、学生電子カルテシステムを構築した上で、自己形成科目や基礎ゼミの開設、チューター制度やオフィスアワーの拡充、学生談話室(自習室)の整備などによって学士力確保を図ること、また学内インターンシップ制度の開設、キャリアデザイン科目の拡充などによって就職支援強化を図ることなどを目指します。

この取組の一環として、10月には学生支援プログラム「自己の探求Ⅱ」を実施する予定です。今後、全学的な実施体制でこうした取組が推進され、また総合教育センター内に設置した取組評価プロジェクト班が目標の達成度評価や取組の改善要請・結果報告などを行う計画となっています。

^{*}全人教育：知識・技能教育だけでなく、感性・特性なども重視して、人間性を調和的、全面的に発達させることを目的とする教育。



学生の活躍

「サマーフェスティバル in ほことり2009」が開催

8月22日(土)、本大学の前を流れる瀬野川の河川敷「ほことり広場」において、「サマーフェスティバル in ほことり2009」が盛大に開催されました。

この夏祭りは、本大学周辺地域である中野東学区連合町内会の主催で、今年開始から20年目を迎え、地域住民や学生・生徒など老若男女の幅広い世代間のコミュニケーションの場ともなっています。

昼間の暑さも少しずつ和らいできた日暮れ時、待ちかねた地元の皆さんが会場を埋め尽くし早くも大賑わいです。各町内会等がバザーを開き、美味しそうな香りに誘われてあちこちに行列ができていました。



河川敷はお客さんで一杯、皆楽しそう



今回も大活躍したVOD

ステージでは有志の方がバンド演奏、舞踊、カラオケ、フラダンスや大正琴などを次々に披露。小学生による和太鼓演奏も観客を沸かせました。さらにゲストとしてシンガーソングライターの森本ケンタさんが登場すると、祭りの盛り上がりは最高潮に。約5,000人にも及ぶ参加者は夏の夕べを満喫していました。

本大学の学生も、情報デザイン学部の学生が案内チラシ・ポスターの制作に携わったほか、学友会等と文化系サークルの放送通信研究会(VOD)が音響や進行を担当。さらには花火の打ち上げにも協力して、夏祭り成功の一端を立派に担いました。

第21回学外展 なごみ - 和 -

第42期学友会文化局 局長 そはら 曾原 大介

6月13日(土)・14日(日)の両日において、広島国際学院大学学友会文化局主催による第21回学外展なごみ-和-を立町キャンパスで行いました。

学外展は本大学の文化系サークルが日々の活動成果を一般の人々、他大学の学生などに公開、交流を深めてもらう行事です。今年の学外展に出演・出演してくれたのは「写真部」「放送通信研究会」「電子計算機研修会」「表千家流茶道部」「応援リーダー部」「美術研究同好会」「ボランティア同好会」「映画研究会 TOYBOX」「吹奏楽愛好会」「競技麻雀愛好会」の10サークルです。

各サークルのどの作品も、見る人の気持ちを和ませてくれるものばかりでした。色鮮やかな水彩画や日向ぼっこをする猫のモノクロ写真、可愛らしいCGキャラクターイラストなど、様々な表現がありました。また、今年は新たな試みとして、美術部が『ちぎり絵体験コーナー』を行い、人と仲良く和み合うという新企画で、麻雀部による『麻雀トーナメント大会』を実施しました。これらは来場者の方々から大変好評でした。

もっとも大変だったのは、14日のステージ発表でした。準備日から本番直前までセッティングなどで大変でしたが、本番は素晴らしい演奏とユニークな映画上映で来場者の方々を和ませることができたと思います。

この度の学外展では、両日合わせて196人の来場者をお招きすることができました。来年は、更に多くの方に来ていただけるように、楽しめる学外展にしたいと思います。



映画上映



写真部の展示



吹奏楽演奏

最近の研究から

工学部

— 科研費補助金に2件が新規採択 —

工学部では、学生中心の卒業研究から地域企業との共同研究に至るまで、いろいろな研究が進められています。今年度、これらの活動の成果として、新規2件の科学研究費補助金が文部科学省から採択されましたので、以下に紹介します。本補助金は、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、専門分野の研究者による審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

微量合金元素制御による固相領域でのアルミニウムの超高速窒化法の開発



表面処理装置を製作している学部4年生

総合工学科 講師 吉田 昌史^{まさし}

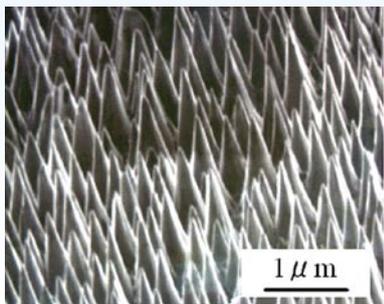
「微量合金元素制御による固相領域でのアルミニウムの超高速窒化法の開発」というテーマで、平成21年度の科学研究費、若手(B)に採択されました。

工業技術の進歩によって、機械構造部品はより過酷な環境の中で用いられるようになってきました。これにともなって、機械を構成する素材にはより高い性能、省資源化、省エネルギー化が求められています。このような社会的な要求の中、様々な機械にアルミニウムやチタン、マグネシウムなどの軽金属の適用が試みられています。その中でも特にアルミニウムの需要は年を追って急増しています。アルミニウムは汎用性があるものの、鉄鋼と比べると硬さや耐摩耗性に劣ります。アルミニウムの適用範囲を広げるためには、硬さや耐摩耗性、加工性等の複数の特性を有するアルミニウムを開発する必要があります。

そこで、我々はアルミニウム表面の高機能化を目指し、アルミニウム表面に硬質な膜を高速形成するための表面処理装置の開発を行っています(写真)。この処理法は、アルミニウムに数時間で数100マイクロメートルの硬質膜を形成することが実現可能であり、従来の技術と比較すると数十倍の高速形成が可能です。科学研究費に採択されたことにより、学生の方々とともに、この新たな表面処理法を構築するとともに、硬質膜の形成メカニズムの解明に取り組んでいます。

そこで、我々はアルミニウム表面の高機能化を目指し、アルミニウム表面に硬質な膜を高速形成するための表面処理装置の開発を行っています(写真)。この処理法は、アルミニウムに数時間で数100マイクロメートルの硬質膜を形成することが実現可能であり、従来の技術と比較すると数十倍の高速形成が可能です。科学研究費に採択されたことにより、学生の方々とともに、この新たな表面処理法を構築するとともに、硬質膜の形成メカニズムの解明に取り組んでいます。

スパッタエッチング法で光・熱を吸収する微細突起物をつくる

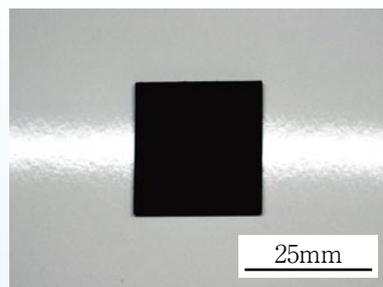


【写真1】合金工具鋼で形成された微細な円錐状突起物

総合工学科 教授 中佐 啓治郎

真空容器の中に気体を入れ、2つの電極の間に電圧を加えて放電させると、気体がイオンと電子に分かれたプラズマが発生します。この現象は、ネオンサインやプラズマテレビに使われていますが、「ものづくり」にも利用できます。たとえば、アルゴンイオンをターゲット電極に衝突させると、ターゲットの原子がたたき出されて(スパッタと言います)表面が除去(エッチング)されます。私たちは、このスパッタエッチング法により、写真1に示すような高密度で微細な円錐状突起物や、さまざまな形の突起物をつくる技術を開発し、すでに2件の特許を申請しています。

写真2は、光沢紙の上に写真1のような突起物をもつ試料を置いて、天井の蛍光灯の光の反射具合を見たものですが、突起物の直径が可視光線の波長(400~800nm)と同じくらいであるため、光を96%吸収して黒く見えます。このような突起物を金型として透明な反射防止高分子膜を作り、テレビや携帯電話の画面に貼ると、どの角度から見ても画面がよく見えます。また、突起物の他の利用法として、太陽光を吸収して直接電気エネルギーに変える、集光鏡で集めた光を効率よく吸収して蒸気をつくり発電機を回す、放熱板(ヒートシンク)として用いる、などが考えられます。企業からの問い合わせも多く、現在、科学研究費のほか2件の研究費を受けて研究を続けています。



【写真2】光を96%吸収する突起物試料

ゲーム室(仮称)、設置準備中

—ゲーム制作の事例・技法を学ぶ環境整備—

2008年4月に設立された本学科メディア・エンターテインメント専攻の、発足当初からの念願である「ゲーム室(仮称)」。設置に向けた準備が現在進められています。

メディア・エンターテインメント専攻の教育カリキュラムの中に、ゲーム制作に関する一連の講義が新たに用意されています。これらの講義の内、一部の実習等は既存の設備で行うことは可能ですが、既存の演習・実習環境では対応できない高度なゲーム制作技法を用いることが可能な環境が必要となります。さらにゲーム制作の一連の教育を行うためにはゲーム作品の事例研究が可能な環境整備も必須要件です。この環境が「ゲーム室」ということとなります。

「ゲーム室」では、1980年代を代表する家庭用ゲーム機から、最新の家庭用ゲーム機までを展示します。最新の家庭用ゲーム機は勿論、昔のゲーム機も操作が可能な状態にして展示します。また、1978年から数年間、ゲームセンターや喫茶店などで人気を博していたテーブル筐体式のインバーダーゲームも展示します。これらの昔および最新のゲーム機を操作することやゲームを体験することは、ゲームを制作する学生にとって大きなヒントになると考えます。シナリオ、プログラミング、デザイン、サウンド、アニメーションなどの技術の集大成であるゲーム制作に、本「ゲーム室」が大きな一役を担うことを期待しています。また、ゲーム制作の教育環境として利用するだけでなく、オープンキャンパスなどでの公開、一定ルールの下で学生への公開も予定しています。

最後に、ゲーム制作に文系か理系かは関係ありません！多くの人たちに、ゲームを楽しむと共にゲーム制作に少しでも興味を持っていただけるよう期待しています。

乳がん撲滅をソフトにアピール ～ピンクリボンラッピングバス～

広島市、ブレストケア・ピンクリボンキャンペーン in 広島実行委員会、第一タクシー(株)の共催によるピンクリボンラッピングバスが完成し、6月25日に第一タクシー本社において出発式が行われました。今回のラッピングには、「デザイン：広島国際学院大学」と大学名が入っています。

本大学学生が昨年デザインした広島・モンテリオール姉妹提携10周年記念ラッピングバスとタクシーは、共にコンペで採択され非常に高い評価を受けました。そのため今回のラッピングバスは、本大学が指名を受けデザインすることとなりました。デザイン担当は4年生の宇山道子さん(大東高校[島根県]出身)です。愛らしいピンクのリボンが車体をゆったりと包み、女性らしく柔らかな表現で乳がん撲滅を訴えるデザインとなりました。中国新聞、日本経済新聞、広島ホームテレビなど多くのメディアで取り上げられました。

本大学名の入ったこのラッピングバスは、来年7月まで広島市内を走行します。



完成したピンクリボンラッピングバスと宇山さん

一流に学び、将来へ活かす

現代
社会学部



「プロの仕事」とは？

—川島なお美・ガッツ石松両客員教授による講義—



華やかな仕事も、日頃の研鑽あつてこそと語る川島先生

川島なお美・ガッツ石松の両客員教授による講義として昨年大きな話題となった社会学合同演習。今年度は「プロの仕事論」という新しいテーマで、お二人の一流プロとしての様々な体験や考え方などを中心とした講義を行っています。

一流プロとしての「職業人論・職業観」「一流論」を中心に、才能や努力、厳しさや楽しさなど、社会に巣立つ学生にとって、「仕事」に関して多くを学びとることのできる講義とします。「プロフェッショナルな世界」を通して、職業や目標等についての考え方に触れることで、学生たちの将来設計への指導・アドバイスとすることを目標としたものです。

●年間の講義は、次の日程です。

	第1回	第2回
川島なお美客員教授	5月20日	10月21日
ガッツ石松客員教授	7月8日	12月9日

◆川島なお美客員教授の第1回社会学合同演習は、5月20日に行われました。

先生ご自身が女優を目指したころの想いから一流プロとしての日頃の研鑽に対する厳しい姿勢など、メディアを通じてはなかなか聞けない話の中に、社会人としてのあり方を感じ取ることの出来た講義でした。また、ご結婚までもない先生から、夫婦論や恋愛プロセスでの幾つかのエピソード等、楽しい話題をも交えた初回講義でした。

◆7月8日にはガッツ石松客員教授の第1回ゼミナールが行われました。

今年度の初回講義は先生ご自身の希望もあり、教室を学外に移しての授業としました。

ボクシングトレーニングを通じて、青少年の健全な人格育成と社会参加を目指す「NPO法人フリースクール・グロービー」のご賛同を得て、ボクシングジムの設備のある会場を教室として実施しました。

世界チャンピオンというプロ中のプロであった世界から得た様々な教訓を中心に、時には、ワンラウンドの3分間という時間が身体能力として如何に長い時間かということなどを受講生に体験させるなど、熱気のある講義が進行しました。広島テレビ及び中国新聞のメディア取材が入るなど、時間が瞬く間に過ぎたというのが受講生の感想でした。



昼食の合間に学生と歓談するガッツ先生



リングを教室に、一層熱を帯びる講義

社会調査士

本学部は、社会調査士の資格が取得できます。社会調査士とは、社会調査すなわち社会生活における人々の意識や生活の実態を正確・精密に偏りなく調べる活動に関する専門的な資格です。アンケート調査と呼ばれる、大勢の人々を対象とする質問調査(時事問題調査、市場調査、住民意識調査等)が社会調査の中心を占めています。

社会調査士資格は、日本社会学会などを母体として設立された一般社団法人 社会調査協会(旧：社会調査士資格認定機構)という公的な機関が認定する全国的な統一基準を持つ新しい資格です。

社会調査士の資格を得るためには、資格に必要な科目の単位を大学で取得する必要があるため、本大学で7科目16単位を取得すれば、本大学が社会調査協会に資格申請を行い、認定されれば資格を取得できることになっています。

本年6月現在、72名が社会調査協会の社会調査士資格を取得しています。広島県内の大学でNo.1の数です。

社会調査士の資格を持っている人は、社会の動きについての関心が強く、きちんと精密にデータを収集し、データをコンピュータを用いて科学的に分析し、信頼できる調査結果を提供することができる、という点が評価され、就職に有利です。



珍しいデロリアンは注目の的、子どもにも大人気

かよこバス試乗と撮影会は、通常は公道を走ることが出来ないかよこバスに乗車できるという本短大ならではのイベントということもあり、大好評でした。

また、昼休憩にはアンサンブルトリオCandy Boxによるミニ演奏会を開催。子どもから大人まで楽しむことが出来、祭りに花を添えていただきました。

映画“バック・トゥ・ザ・フューチャー”にも登場した名車・デロリアンを改造した電気自動車の展示と撮影会は、滅多にお目にかかれないだけに大盛況。一時は黒山の人だかりになり、エコ・カーということもあっていろいろな質問も寄せられました。

ポン菓子の実演においては、ポンと大きな音がする度に、子どもたちが珍しそうに機械の廻りを取り囲んでいました。参加者はどなたも“至れり尽くせり”だったと満足して帰られました。

“自短夏祭りだよ”全員集合

地域交流会会長 越智三千彦

本短大は今年度から、地域に開かれた大学、また地域とともに歩み発展する大学となることを目的とした“地域交流会”を発足。その一環として“自短夏祭り”を8月22日(土)に実施しました。当日はじりじりと太陽が照りつける炎天下にもかかわらず、小学生から大人まで地域の方々約300人にご参加いただきました。

メイン・イベントの“ペットボトルでソーラーカーを作ろう”においては、「夏休みの宿題が出来た」と、子どもたちも大喜びでした。



ソーラーカー作りに挑戦する子どもたち

FIA ASIA-PACIFIC RALLY選手権第4戦 Rally-Hokkaidoに専攻科学生と参加

講師 夏明 成己



無事完走！ドライバーもスタッフも満面の笑み

7月10日(金)～12日(日)、北海道の帯広を中心として、FIA ASIA-PACIFIC RALLY 選手権 第4戦 Rally-Hokkaidoが開催されました。今回も栃木県のメープルスポーツラリーチームから出場する2台の三菱ランサーエボリューション(赤羽/赤木車)、(小林/山田車)のメカニックとして本短大専攻科2年生7名と共に参加しました。

ラリー期間中は雨が降ったり晴れたりとめまぐるしく変わる天候で、一日の温度差が15度以上もあるような厳しい条件でした。参加した学生達は初めてのラリーの現場で、最初は声が出ていなかったり、お互いの連携が取れていなかったりと戸惑いからのスタートでした。しかしチームスタッフの懇切丁寧な指導のもとでラリー車の整備作業をすすめ、最終日には指導の成果も表れ、それぞれがきちんとした働きが出来ていた様に思います。結果は2台共大きなトラブルもなく無事完走することが出来ました。

限られた時間の中、それぞれが正確に、かつ確実に作業をしなければすぐさまタイヤに繋がってしまうといった厳しい状況を体験したことは、本人達にも良い経験となったでしょう。

・メープルスポーツ <http://www.maplesport.com/>

・Rally-Hokkaido <http://www.rally-hokkaido.com/>

体験入学

准教授 野吹 幸男

8月9日(日)に体験入学を実施しました。今回は高校3年生12名と2年生3名が参加。エンジンコース9名(内女子3名)、シャシコース3名、ミニバイクコース3名で、各コースに分かれて簡単な説明の後、実際の分解組立実習に入りました。

エンジンコースでは、乗用車用エンジンをほぼ全部分解し組み立て、シャシコースでは足回りのコイル・スプリングの組み換えなど、興味深く作業をしていました。また、バイクコースではエンジン部分の分解組立を行い、最後にエンジンをかけたときには全員満足そうな顔をしていました。

初めて使う工具や測定器具に戸惑いながら、参加者は教員の指導のもと真剣に取り組み、各部品が精密に組み立てられていることに感心していました。体験入学を通して自動車に興味を持ち、整備の楽しさを理解していただいたと思います。



真剣な表情でエンジン組み立て作業に挑戦する参加者

6月20日 感動を呼んだ体育祭



大きな拍手を浴びた集団演技

「写真撮影の隊形に整列!」。その10秒後、保護者席からも生徒テント席からも大きな拍手。1年男子の「集団演技」です。1年女子は「よさこい」を歯切れ良く、力強く演じました。そして、この1年生をうらやましがらせたのは2年生の「フォークダンス」。照れくさそうな顔、楽しくて仕方なさそうな顔。見ている我々も踊りたくなるような実に楽しいダンスでした。そして、3年生の「盆踊り」。本高校の伝統となった“ゆかた”姿での踊り。演目は「大広島音頭」、「二十世紀音頭」、3曲目は、熊野町に昔から伝わる盆踊り「熊野町筆踊り」。日頃お世話になっている地域の方々への感謝の思いを込めて、荻野校長の発案により昨年からはじめたものです。昨年は、「海田音頭」をご披露しましたが、順次、学校周辺地域の盆踊りに挑戦し、ご披露したいと考えております。

す。

グラウンドではまだまだ感動が展開されます。応援の歓声が最高潮となるのは何と言っても「クラス対抗リレー」。圧倒的な脚力に目をみはり拍手を送る、その一方で周回遅れになりそうな選手が最後まで走りきる場面は、さらに見る者を感動させます。

文末ではありますが、ご観覧いただいた保護者の皆様へ心より感謝を申し上げます。用意したテント8張り、パイプ椅子600脚は満席で、多くの方々にご迷惑をおかけいたしました。しかし、生徒の明るい笑顔と真剣なまなざしを見ていただけたことは有り難いことでした。今後とも、本高校教育へのご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、RCCラジオがこの体育祭の様子を取材に来ました。取材した記者は大いに感動し、ほぼ一日、グラウンド周辺で取材活動を続けておりました。4日後、20分もの長きにわたり“感動の体育祭”が夜の番組で放送されました。



楽しいフォークダンス

吹奏楽コンクール中国大会へ

吹奏楽部顧問 中島 洋治

6月21日、大きな拍手に包まれ第21回定期演奏会が幕を閉じました。部員達は一様に大きな感動と達成感に酔っていましたが、実はその瞬間から次のコンクールへ向けた準備に入っていきます。

本高校吹奏楽部の上半期の活動は、定期演奏会と吹奏楽コンクールで成り立っています。定期演奏会終了後すぐオーディションを行い、55人のA部門出場メンバーを決定します。選に漏れた者はB部門へ出場するための練習を行うこととなります。A部門の課題曲はマーチ「青空と太陽」、自由曲は芥川也寸志作曲「交響三章」。特に自由曲は吹奏楽で演奏されたことはこれまでになく、特別に編曲していただいたものを使用しました。ソロの多い曲で、担当の者はプレッシャーを感じつつ練習に打ち込んだと思います。



吹奏楽部定期演奏会

8月8日の県大会。朝早いエントリーでしたが、前日学校に泊まり込んで乗り切り、よい演奏ができました。結果は100点満点で通過。見事昨年の屈辱を晴らし、中国大会へと駒を進めました。それからは移動の日々です。学校の音楽室では狭いのであちこちのホールを借りて練習しました。毎日のセッティングと積み込みは大変でした。8月22日に山口県周南市で行われた中国大会では、十分な力を発揮することができず、残念ながら銀賞受賞に止まりました。しかしながら、ここまで来られたのは皆様方の応援のおかげと感謝しております。これからもよろしくお願いいたします。

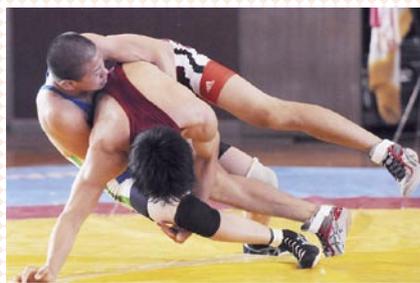
全国へ! 「国際学院レスリング部」

広島国際学院高等学校の体育館を会場に、6月5・6日の2日間、第62回広島県高等学校総合体育大会レスリング大会が開催されました。中村先生率いる我がレスリング部は、学校対抗戦(団体戦)において優勝。5年振り28回目の栄光に輝きました。

また、個人対抗戦では、50Kg級で寺尾浩幸君(1年・西条中学校出身)、55Kg級で熊野準君(3年・船越中学校出身)、66Kg級で白雲央樹君(2年・高屋中学校出身)、84Kg級で坂野修平君(3年・海田西中学校出身)の4選手が全国大会への切符を獲得しました。

県総体を間近に控えた練習中にメンバーの一人が骨折するなど、不安と重圧の中で迎えた大会。主将の坂野君を中心に気持ちを一つにした戦いの結果が、「復活」を告げる28回目の優勝でした。

全国高校総体(インターハイ)は8月3日、奈良県で行われました。団体戦では山梨県立^{にらぎ}葦崎工業高校と対戦し、2対4での惜敗でした。個人戦では、寺尾君がベスト8(5位)、白雲君がベスト16と、大いに健闘しました。これからの成長を期待したいと思います。



広島県高校総体・団体決勝を戦う白雲君(左)
中国新聞社提供 平成21年6月7日付



どの選手も懸命なプレーを見せてくれた

🏆 広島国際学院サッカーフェスティバル 🏆

サッカー部顧問 瀬越 徹

4回目を数える「国際学院サッカーフェスティバル」。今年は近隣の高校、中学校、クラブチームの合計17チームを本高校グラウンドおよび海田総合公園に迎え、8月3～6日の4日間開催しました。

大会の趣旨は、高校年代と中学校年代の交流を通して地域のサッカーのレベルアップにつなげることです。教員はプログラム(冊子)の作成にのみ関わり、会場作り、審判、記録など大会運営はすべて本高校サッカー部員が行います。他の大会では会場設営、審判さらに片付けまで人にさせていただいています。

その大変さを知り、感謝のできる選手に育って欲しいと部員に任せているのです。

大会は大成功に終わり、どのチームの選手も参加してよかったと感じてくれたと思います。中学生は高校生に胸を借り、一生懸命戦いました。中学1年生同士の試合ではほのほのとするプレーが見られました。本高校選手にも大会運営の一層の円滑化、選手同士の意思疎通、技術指導力の向上など沢山の成果があり、今後の成長に欠かせない様々な視点や力を与えられました。出場した中学生選手が近い将来本高校に入学し、再び共にプレーできることを心待ちにしています。

躍進する“ゴルフ部”

長年の努力が実り、本高校ゴルフ部が今夏、創部より初めて全国大会に駒を進めました。

7月23・24日に行われた第26回中国高等学校ゴルフ選手権大会(団体の部)中国予選で、成松亮君(3年・高屋中学校出身)、久志岡俊海君(2年・仁保中学校出身)、長谷川祥平君(1年・大野東中学校出身)、村山駿君(1年・昭和中学校出身)の4名から成る本高校チームが優勝。見事に全国大会出場を勝ち取りました。

同28・29日には、第53回全国高等学校・中学校ゴルフ選手権大会(個人の部)中国予選が行われました。男子は上記の4名が3位から9位を確保。女子も東加菜さん(2年・仁方中学校出身)が4位に入賞して、それぞれ全国大会出場権を獲得しました。

8月4・5日、メンバー5名は群馬県安中市で開催された平成21年度全国高等学校ゴルフ選手権大会に臨みました。団体の部で男子4名は日頃の力を存分に発揮し、全国6位入賞の栄冠に輝きました。一方個人の部では、久志岡君9位、成松君43位、長谷川君と村山君は57位タイ(出場選手194名中)とそれぞれ健闘しました。女子の部に出場した東さんも見事な粘りを見せましたが、上位入賞には手が届きませんでした。

結果はともあれ、本高校ゴルフ部の歴史に新しいページを加えてくれた選手の皆さんを大いに讃えたいと思います。



長年の夢、全国大会出場おめでとう!

教員の学位取得

伏見 清香 (情報デザイン学部 教授)

学位名：博士(学術)

学位授与大学：名古屋大学

論文題目：携帯情報端末を使用したエクスペリエンスの高い美術鑑賞支援



本研究は、5本の論文を以下の内容にまとめた。

美術鑑賞に親しむ機会の少ない人を主な対象として、能動的で参加型の鑑賞行為を誘発し、ユーザ・エクスペリエンス(UX)の高い、携帯情報端末を使用した作品鑑賞支援システムを開発する。そのシステムを有効に機能させるために、ユーザ・センタード・デザイン(UCD)に基づき、ユーザビリティを向上させる。さらに、ユニバーサルデザインに考慮し、鑑賞者の特性と多様な状況に対応することを目的とする。

本研究は、次に述べる三つの段階を通して鑑賞支援システムを実現した。第1段階では、PDAを使用し、鑑賞者であるユーザの立場からUCDに基づきデザインを進め、本研究の基本となる作品鑑賞ガイドを構築した。第2段階では、携帯電話を使用し、作品鑑賞ガイドを提供するとともに、鑑賞者が感想を投稿し共有するシステムを開発し、ユーザビリティに考慮したデザインを実現した。第3段階では、UXを高めることを目的として、都市空間において写真と感想を共有する、携帯電話を使用した鑑賞支援システムを実現した。

以上、本研究では、実験の評価によって示される通り、受動的になる場合が多い鑑賞行為を、作品をよくみて考える能動的な鑑賞行為に導き、鑑賞者のUXを高めた。また、システムの技術開発が優先する現状において、鑑賞者の立場から使いやすいデザインを実現した。これらは本研究を通して得た意義であり、今後の鑑賞支援に寄与できるものと考えられる。

神垣 太持 (情報デザイン学部 准教授)

学位名：博士(工学)

学位授与大学：広島大学

論文題目：ICT支援によるフレキシブル生産システムの設計、管理、制御に関する研究



本研究では、フレキシブル生産システムの設計、管理、および制御を、ネットワーク、シミュレーション、インタラクションおよびエキスパートシステムなどのICT(情報通信技術)支援によって円滑かつ効果的に行う手法の提案を目的とする。近年のフレキシブル生産システムは、ICTの導入に伴ってますます肥大化、複雑化しており、それに伴って新たな問題も生じている。本研究では、それらの問題点を分析し、解決方法について研究する。

また、フレキシブル生産システムへICTが導入されることによって、人間の果たす役割は大きく変わらなければならない。これからICTがどのように発達したとしても、人間の知識や経験といったものが生産システムの管理と制御において不可欠であるという考えをベースとして、本研究の目的は、いわゆる完全自動化、無人化ではなく、柔軟に対応できる人間の特性を生かすことで、より効率的な生産システムを実現するため、管理、制御を行う人間とそれを支援するICTとりわけコンピュータ、ネットワークを含めた統合的なシステム設計手法について研究し、オブジェクト指向設計や知的支援によるインタラクションを用いた新たな設計手法を提案することである。さらに、開発した手法の実践、実行を通じて、その設計手法の有用性を明らかにすることである。

学生時代の思い出と社会人になって思うこと

チャンスをつかめ

電子工学科 平成8年3月卒業 近藤 岩蔵

■チャンスをつかめ。ありきたりな言葉ですが、現実実行は難しいものです。恋人と出会うチャンス・教授の気分が良いチャンス・先輩の気分が良いチャンス・等々。この大学に入学した目的は何ですか？単に遊びたいだけでしょうか？社会に出てからは学ぶことができない、専門的に学べるものがゴロゴロ目の前にあるのです。折角専門大学に入学しているのですから、十分この大学の知識を自分の中に取り入れて欲しいです。後の社会生活の為にも今、目の前にある授業そのものがチャンスなのです。逃がさないでください。遊びも思いっきり遊んで発散しましょう。そして勉強しましょう。ここは勉強の場です。貴重な経験ができる場であることを、是非知ってもらいたいです。自分の中に十分経験を取り入れて卒業して、この大学での貴重な経験(遊びを含めて)を社会に出てから沢山活用して欲しいです。

■大学在学中、写真部に入っていました。先輩に夜「一緒に撮影に来い」と狩り出され、朝大学に帰ってきて大学の部室から缶コーヒーを飲んで授業へ出る…なんていうのも日常的でした。懐かしい思い出です。卒業後は電機関係の会社に勤務しましたが、「この仕事は自分で無くても代わりはいる。自分にしかできないことをやりたい。」と退社。写真1本に打ち込みました。2003年に脳炎で倒れ、脳に障害が起きました。2008年にも脳卒中で倒れました。2009年現在リハビリ中です。

■今年4月新展美術協会にて私の写真作品が、色々な美術部門の中から法務大臣賞を受賞しました。題名は「夢」です。写真ではムスツとした顔ですが、受賞できて、とても嬉しいです。



近藤さんと受賞作品

全店3位の売上実績！ トップセールス継続を目指す

情報工学科 平成19年3月卒業 糸井 俊郎



賞状を示す糸井さん

2007年に母校である広島国際学院大学情報工学科を37期生として卒業しました。在学中は、檜高研究室にて顔認証システムのプログラム作成を中心に研究しておりました。クラブ活動では硬式野球部に所属しており、野球を通じて精神面や忍耐力が身につきました。また、部員数が約70人と多かったため、コミュニケーション能力や人と人の繋がり大切さも学びました。この経験は社会人になった今も私にとって貴重な財産となっています。

卒業後は㈱デオデオへ入社し、家電製品の販売と店舗運営業務全般に携わっています。今年で入社3年目となり、主にパソコンやプリンタ、デジタルカメラなどの売り場で販売営業をしています。基本は接

客業務で、店舗内スタッフ個々に月単位で販売目標が与えられ、それに対して目標数値を立て日々取り組んでいます。月単位ももちろんなのですが、半期で締めた時に目標をクリアできた時の喜びと達成感は格別でした。また、私を指名して来てくださるお客様ができた時も仕事のやりがいを感じる瞬間です。

この度、平成21年度3月決算期で、社員2,164名の中で3位という売上実績を残すことができました。これからも自分を支えてくれる方々に感謝の気持ちを常に持ち、毎月トップセールスとして表彰されるよう、そして全社員から糸井という名前を覚えてもらえるように、史上最年少出世を目指して日々頑張っていきたいと思っております。



デオデオ東川原店（岡山市）

スチューデントアシスタント —先輩が後輩を指導—



後輩を指導する作本さん

総合教育センター 副センター長 松尾 邦昭

S.A.(Student Assistant)、少し耳慣れない英語です。学部上級学生が下級学生に学習指導をするシステムであり、また指導を行う上級学生をも指すと考えてください。関東地方の大学では早くからこの制度を取り入れており、指導する学生にはそれなりの報酬も支払われ、一応の成果を出しているという報告もあります。

本大学でもこのようなS.A.のシステムは取り入れ可能かどうか、昨年12月に上層部より検討要請があり、まず総合教育センターで協議しました。学生にきめの細かい学習指導を行うため、講義を欠席しがちな学生への補助講義、またS.A.自身の勉学のためにもこのような制度は必要で

すと先生方へ説得しましたが、教員の仕事を減らすためではないか等の意見が多くあり、なかなか理解が得られませんでした。その結果、本年度は試行期間として、今村学長、現代社会学部の栗原准教授、工学部の松尾の3名でとりあえずスタートさせることになりました。

S.A.の主な仕事は模範解答の作成、宿題の添削、休みがちな学生への個人指導等です。現在活動しているS.A.は淡路隆行君(バイオ・リサイクル学科4年・広島国際学院高校出身)、池田裕太君(現代社会学科4年・同)、作本ちひろさん(電気電子工学科4年・同)の3人です。写真は工学部総合工学科の必修科目「回路理論I」を受講している学生に作本さんが個人指導しているところです。場所は私の研究室の隣の部屋で、周りには工具箱等がありますが、当人達はそれらにお構いなく熱心に指導し、また真摯に受講しているのがお分かりでしょう。

本年度は予算も計上しておらず、今村学長、奥田法人事務局長にはたいへん御迷惑をおかけしました。来年度はこの制度を軌道に乗せ、一層良いものにしていきたいと考えています。

大学初！学生が「薬物乱用防止教育認定講師」に

薬物の蔓延が社会問題としてクローズアップされる中、本大学では(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター、広島フェニックスライオンズクラブのご支援のもと、全国の大学に先駆けて「大学生薬物乱用防止教育認定講師」育成に取り組んでいます。希望者として教員を目指す7名の学生が、現在、認定講座に向けた勉強会等を実施しています。

9月9日には4名を対象に勉強会を行った後、広島国際学院高校を訪問しました。生徒会の役員4名と話し合い、高校生の薬物問題に対する意識や、薬物乱用防止教室のあり方等についての考えを事前に調査しました。若者に広がる薬物乱用問題についての特集を組んでいるNHKは、当日の勉強会と話し合いを取材。25日夕方の番組で放映されました。

これに先立つ7月、広島県健康福祉局保健医療部薬務課、(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター、広島フェニックスライオンズクラブと本大学の関係者で、第1回目の育成計画会議を開催しました。この席で確認された事項は次の通りです。

- 平成21年11月に開催が予定されている薬物乱用防止教育認定講師養成講座に、10名程度の学生を選考し参加させる。
- 認定証を授与された学生を中心に、学内に組織をつくり啓発活動を行う。
- 広島県やライオンズクラブが実施する薬物乱用防止キャンペーンに参加する。
- 広島フェニックスライオンズクラブが小・中学校等で実施する薬物乱用防止教室で講師を務める。

全国初の大学生による薬物防止の取り組みに、大きな関心と期待が寄せられています。



高校生と大学生の話し合い
(広島国際学院高校)



第1回育成計画会議
(立町キャンパス)

教員免許状更新講習が終了

—先生方から高い評価—

平成21年度教員免許状更新講習を、8月3～7日の日程で開催しました。心配された自然災害や新型インフルエンザなどの影響も受けず、無事に実施できたことに心から感謝しています。

本大学では受講する講座を自由選択制にしたため、手続きや事務処理は複雑になりましたが、それぞれの目的に合わせて連日60名以上の先生方が熱心に受講されました。中には、ホテルから通われたという遠方の受講者もありました。

●講習の概要

○必修講習では、教育実践の視点から諸課題に取り組むという本大学の講習の趣旨を活かすため、テーマごとに学外からも専門の講師を多数招聘し、それぞれの特色が発揮された講習を2日間開催しました。

○選択講習では、本大学の柱となる電気・機械・情報デザイン・現代社会の各専門を活かした「工業」「技術」「環境化学」「情報活用」「国際理解」にかかわる18件の講習を3日間開催しました。

●本年度の講習を終えて

5日間連続の受講は、心身ともに負担が大きかったと推測します。その責任ある講習を日々改善し充実させるため、毎日無記名で事後アンケート調査を行いました。調査項目は文部科学省が求めた内容でもありましたが、アンケート結果を整理したところ「内容・方法」「知識・技能の修得の成果」「運営」の3項目とも全てにおいて高い評価を得ました。また、自由記述欄に記入されたコメント約500点の中には「充実していた」「勉強になった」「親切であった」、さらには「運営にあたっての配慮に感謝する」という内容が非常に多く見られました。むしろ本大学の方が感謝で一杯です。これから認定に必要な手続きや報告等の作業を行うとともに、反省すべき点を整理して来年度に備えようとしています。



表面処理の講義を受け塗装のプロに挑戦

本年度講習の詳細については、本大学のHP <http://www.hkg.ac.jp/cge/koushin/> をご覧ください。

現代社会学部の統合移転について

現代社会学部は平成22年4月、上瀬野キャンパスから工学部、情報デザイン学部のある中野キャンパスへ統合するために移転準備を進めています。今後さらに進行するであろう18歳人口の減少に備え、二分されていた大学を一つのキャンパスに統合して、学生の活性化を促そうとするものです。

統合移転によるメリットは多々あります。現代社会学部の学生の通学時間はかなり短縮されます。キャンパスの統合により全学生が受講できるカリキュラムも豊富になります。文系、理系の学生が一緒になることによって、幅広い考え方を持つ多くの学生が集まる楽しい雰囲気のあるキャンパスになるでしょう。女子学生も大勢入学したいと思う魅力ある大学に変身できる絶好のチャンスです。工学部、情報デザイン学部、現代社会学部の教員交流も活発化し、文理融合による学際的分野で新たな研究開発も促進されます。その成果は学生の皆さんにもより魅力的な教育となって還元されます。文理を兼ね備えた中・四国地方では数少ない特色ある私立大学として発展の礎を築くことができます。



学生・保護者説明会の様子

エコへの取り組み

「環境の日～ひろしま大会～」に初出展!



環境問題に関心が高まる中、会場はにぎわった

6月7日、「環境の日ひろしま大会」が県庁前広場で開催され、「環境」をテーマとした活動の展示や環境関連製品の紹介が行われました。本大会は、早急な環境対策の必要性が叫ばれる中、身近な環境問題について学習し、地球温暖化防止等の環境問題解決に関わる貴重な情報を得る格好の機会となりました。

本年度初出展である本大学は、本大学にて開発・製造したバイオ燃料(米のとぎ汁から製造したバイオエタノール、廃食油から製造したバイオディーゼル燃料)、バイオ燃料自動車、並びに、本大学で実施しているエコロジーアクションやエコキャンパス構想について、本大学ブースならびにステージ上において、紹介・展示を行いました。見学者の中には、広島でも環境に優しい技術を積

極的に研究・開発していることを知り、自らも何か環境に良いことをしなければと、コメントされる方も居られ、本大会参加を通じ、環境意識向上に貢献できたと実感することも出来ました。

県環境局の報告によると、当日は晴天であったこともあり、昨年をはるかに上回る15,000人超の見学者がありました。本大学ブースにも、数千人の見学者が訪れ、用意していたグッズ(約450個)、パンフレットを見学者の方々に手渡しました。本大会を通じ、本大学の環境保全に関わる活動を広くアピールすることができました。なお、出展したバイオ燃料自動車については、中国新聞(6月8日付)において、紹介されました。



熱心にバイオ燃料自動車の説明を聞く参加者

エコキャンパスを目指して

—キャンパスリサイクル活動—

クールビズ、ウォームビズやクリーンキャンペーンは、本学院が昨年度から取り組んでいる「キャンパスリサイクル活動」の一環として実施しています。

この活動は、学生・生徒と教職員が一体となって「省資源・省エネルギー」や「廃棄物のリサイクル」を推進することにより、エコキャンパスの実現を目指しています。具体策として、学生・生徒と教職員の意識啓発を図りつつ、冷暖房の温度管理や、廃棄物の分別収集、室内外灯の節約、節水の徹底等を行うというものです。



地域の方と学生・教職員が協力して取り組んだ

クールビズは、6月～9月に冷房温度を27℃とし、ノーネクタイなどの軽装運動を、ウォームビズは、11月～3月に暖房温度を20℃とし、一枚重ね着運動を中心にそれぞれ展開し、既に一定の成果も得ています。(本年度は、これらの運動推進用ポスターを情報デザイン学部教員と学生の協力を得て作成しました。)

また、クリーンキャンペーンは、大学では工学部、情報デザイン学部の学生と教職員が一体となり、昨年度は10月に2回、本年度は地域住民の方々と一緒に6月に1回既に実施しました。今後は秋に2～3回同じメンバーで実施する予定にしています。



屋上で水耕栽培したミニトマトの収穫

合同産業(株)の50周年記念事業としての本大学への支援

合同産業(株)は著名なビルメンテナンス会社で、本大学の建物管理にも長年貢献され、また多くの卒業生も受け入れて頂き、関わりの深い企業です。「誰も知らないところで…」や「Do you know Godo Sangyou?」などのTVコマーシャルで有名です。この度、合同産業50周年記念事業の一環として、社会貢献の観点から産学協同事業への申し入れがありました。著名企業の記念事業として本大学のみが選ばれ連携を結ぶという、大変名誉ある取り組みです。キーワードとしては「環境」「誰も知らないところで」「子供たちに夢を」が提案され、採択されたのが以下4件の連携事業です。

1. 「合同産業50周年記念コミュニケーションツール」の開発

情報デザイン学部学生との共同による、合同産業50周年のキャンペーンマークの作成。また、学生とのブレインストーミングにより合同産業のCM14作を検証し、学生の視点から、アニメーションによる「いつも、どこかで」編を協同で制作し放映しています。

2. 水耕栽培による屋上緑化の実証実験

総合工学科の山崎准教授により共同研究で開発された電動式水耕栽培装置を、合同産業江波青雲寮の屋上に設置し、屋上緑化の実証試験を行っています。データやノウハウを得るばかりでなく、栽培している草花、野菜、ミニトマト、稲などを収穫し楽しむ機会を近隣の園児などにも提供し、地域環境意識の啓発も行います。

3. 「恐竜ロボット(トリケラトプス)」の製作

総合工学科の松尾研究室の卒業研究と協同して、マイクロコンピューター(PIC)を使ったロボットを製作し、地域の祭り、イベントで発表、実演します。学生の学習意欲を醸成し、地域の子供たちの夢の実現の一助となる取り組みです。

4. 広島原爆犠牲者の水質保全と水環境保全

広島銘水研究会(総合工学科佐々木研究室)の22年間にわたる、原爆犠牲者の慰霊のために献水される献水のボランティア水質分析、環境保全活動を評価し、この平和継承と自然環境保護に貢献する地道な活動を、出版公表することを支援します。



広島銘水研究会による瀬野川の水環境学習

地域連携センターと企業との共同研究

本大学の地域連携センターでは、①科学技術に関する基礎・応用研究、②地域社会と連携して科学技術の進展、産業の振興、環境問題の技術的解決、③公開講座を通じた情報発信などの諸事業に取り組んでいます。企業との共同研究等も数多くありますが、その一部を事例として紹介いたします。

①コスモ石油(株)との共同研究で、植物成長促進剤5-アミノレブリン酸(ALA)の技術開発や、製油所の活性汚泥処理で副生する活性汚泥の減容化に関する共同研究を行い、アルカリ処理と高速攪拌ミキサーを組み合わせ、活性汚泥を半分以下に減量する新技術を開発しています。②三菱重工業(株)、(株)サタケとの共同研究で、非常に濃度の高い米のとぎ汁である「無洗米製造排水」から、排水の減量化と再資源化を念頭に置いて、効率的な洗米排水処理とバイオエタノール生産を両立したシステムの開発研究を実施しています。これらの他に、③関西電力(株)との共同研究で、「ヘドロの浄化技術、光合成細菌による重金属・放射性核種の除去技術」および特許出願、④登喜和冷凍食品(株)、信州大学との共同研究で、「高野豆腐製造排水からの機能性成分回収とその処理」、⑤企業グループとの共同研究で「竹の爆砕と水耕栽培培地への利用」等々を実施しております。



活性汚泥減容化システム
(コスモ石油(株))

国際協力

タイとの国際協力

昨年(平成20年7月)にタイ王国農業省、農業研究開発機構(ARDA)との、研究交流協定を締結しました。JSPS(文部科学省学術交流推進機構)による、本大学での20年以上におよぶタイ王国国立大学との研究交流が評価され、特にバイオと農業研究での要望により協定を結びました。

これら研究交流協定に基づき、バイオ・リサイクル専攻の教員が、平成20年12月に2週間、平成21年6月にそれぞれARDA(バンコク)に滞在し、博士候補者、シャ



「バイオと農業に関する講習会」の様子(ARDA)

パーバン レウチビトジ研究員や他の研究員に研究指導を行いました。また、JSPSによる交換研究者として、チェンマイ大学、農業生産学部のカズキ シイチャラヤチャン講師が、平成21年6月にバイオ・リサイクル専攻に約2週間滞在し、バイオ技術による乳業食品排水のリサイクル利用に関する研究交流と博士論文のまとめを行いました。また、10月にはARDAから研究員が約2-3ヶ月滞在予定です。一方、本大学の学生もタイ王国での農業研修を計画しております。タイは英語文化圏でこれら研究員の本大学滞在や訪問研修は、語学研修のみならず、専門英語や新技術、伝統技術に親しむ絶好の機会となっており、動いて学ぶ楽しさを学生や教職員は大いに感じています。



バンコク郊外農業省実習農園見学

アフリカ・シエラレオネ共和国への教員派遣

7月8日、地域連携センター所属の石坂広樹准教授が、アフリカ・シエラレオネ共和国に教育政策の専門家として約3ヶ月間出張することになりました。今回の出張は国際協力機構(JICA)と学校法人との間で交わされた契約に基づくもので、具体的には、現地で実施される理数科教員研修に関連した調査・マネージメントを石坂准教授が担当することになります。

シエラレオネ共和国は、2002年に和平合意・武装解除がなったばかりであり、教育の質の向上が急務となっています。特に理数科は、科学技術立国を目指す同国にとって最重要課題です。

石坂准教授は、「今回の出張は本大学が本格的に国際協力に携わる大きな一歩となると自覚しています。大学を代表して同国に最良となる理数科教員研修が実施できるように尽力していきたいです。また、現地の模様は個人ブログにて皆様にお伝えできればと思います」と派遣前の思いを語りました。ブログのアドレスは、<http://giroqui.blogspot.com/> です。ご興味のある方はどうぞアクセスを!



シエラレオネの位置を指す石坂准教授

★ 今後の主な行事予定
(赤字は公開行事です)

大学・短大 **高城祭 (10/17~18)** 推薦入試 (大11/7 短1期11/7 2期12/12)
冬期休業 (工・情12/24~1/6 現12/24~1/8 短12/26~1/5)
高 校 中間考査 (10/16~20) イギリス姉妹校来校 (10/20~30) **文化祭 (11/22)**
期末考査 (12/8~11) 終業式 (12/22) 始業式 (1/7)

77号訂正：15ページ・「高校進路状況」 主な就職先「田中電気工業(株)」→「田中電機工業(株)」

78号訂正：11ページ・「チーム自短」、全国制す 本文4行目及び右下写真キャプション「児玉健一さん」→「児島健一さん」

この広報誌はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/>

平成20年度事業報告(含む財務の概要)はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/kikaku/soumu/H20houkoku.pdf>